教育目標「気概にあふれ主体的に考え行動する生徒」

絆 ～小さな学校の大きな誇り～

花巻市立湯口中学校
校報　Ｎｏ３２
令和７年10月30日
文責：校長（菊池）

若杉祭大成功　来場者から高い評価をいただく

シンガク披露　３年生にとって最後の舞となりました。キレのある舞が印象的でした。

総合発表　それぞれの学年の工夫ある発表でした。

【１年生】「岩手に生きる～魅力ある文化と人々～」

→県立博物館での学び、盛岡手づくり村での体験、未来パスポートでの社会人講師との交流からの学び、キャップハンディ体験の実際と学びを発表

【２年生】「自分の未来を切り拓く」

→２事業所への職場見学での学び、青少年の家でのレクや立志の集いの報告、平泉でのフィールドワークでの学び、職場体験学習を通しての学びを発表

【３年生】「避難所運営物語」→避難所運営の在り方をオリジナルの脚本により劇で表現

吹奏楽発表　コンクールや地域での発表等の場数を踏んでレベルアップした演奏を披露

合　唱　どの歌も気持ちのこもった響きとなっていました。

【１年生】『ＣＯＳＭＯＳ』　指揮：芦澤　希　伴奏：佐々木うた

【２年生】『あさがお』　指揮：照井大吾　伴奏：藤井俐流羽

【３年生】『手紙』　指揮：平賀雪奈　伴奏：佐々木　奏

【全　校】『春愁』　指揮：髙橋知紘　伴奏：佐々木　奏
『絆』　指揮：髙橋瑤葵　伴奏：久保田陽まり

「わたしの主張花巻大会」優秀賞

自分らしく生きるために

花巻市立湯口中学校三年　伊藤　咲空

「人が最期を迎える場所を、自分で選べるのは、当たり前のことなのか。」

私が最後に祖父の手を握ったのは、冬の寒い朝でした。祖父は静かに息を引き取りました。祖父が日に日に弱っていく中、私はその時間を通して、「最期をどこで、誰と迎えるか」は、人間にとって大きな人権の一つだと気づきました。

祖父がまだ元気なころ、会いに行くと、動くのが遅くなっていた祖父は、「手を貸して。」「くつはかせて。」と、動こうとしません。手伝いを頼まれるのはいつも私。少し祖父が嫌になることもありました。しかし、徐々に病気は悪化していき、とうとう入院することになりました。

長い入院生活が続いていたある日、先生から、「もう病気を治すことは難しいです。最期まで病院で生活するか、自宅で生活するか考えたほうがいいです。」と告げられました。両親と祖父で話し合い、自宅に戻ってくることにしました。

祖父が自宅で過ごすようになってから、私も毎日体を拭いたり、アイスを食べさせたり、介護生活が始まりました。簡単ではなかったけれど、祖父の手を握るたび、「ありがとう」と言われているような気がして力がわきました。

祖父が息を引き取ったのは、ある冬の朝でした。少しずつ呼吸が弱くなっていって・・・。でも、祖父は家族全員が揃うまで待っていてくれました。家族が囲んでいる中で、祖父は静かに息を引き取りました。いつもの見慣れた部屋で、家族の声に包まれて旅立ちました。「これが祖父にとっての自分らしい最期だった」と感じました。

祖父が亡くなった後、家族から聞いて驚いたことがあります。祖父は退院する直前まで「家に帰りたいけど、迷惑になるから。」と気に掛けていたそうです。最後まで自分のことではなく家族のことを考えてくれていた祖父。嬉しいような、切ないような気持ちになりました。私がいつ遊びに来てもいいように、おもちゃや私が喜びそうなものを用意してくれていたことも知りました。その思いを知ったとき、私は深く後悔しました。祖父は言葉にしなくても、ずっと私のことを大切に思ってくれていたのです。

この経験を通して、私は「誰にでも自分の生き方と共に、亡くなり方を選ぶ権利がある」と気づきました。たとえ年をとり、介助が必要になったとしても、誰かに決められるばかりではなく、自分で選びたいという思いがある、それを周りの人や家族がどう支えるかがとても大切だと思います。

高齢化が進む今、高齢者を「介護が必要な存在」として守るだけでなく、「かけがえのない人生を歩んできた一人の人間」として尊重することが大切だと私は思います。私は祖父を看取ったことで、「人が自分らしく生きること」を、人生を終える最後まで大事にしたいという思いを強く持つようになりました。

しかし、介護の現場に立ち合うことで、経済的な問題や家庭の事情などによって、本当は望んでいても自分で選べない方が多くいることを知りました。日本財団の調査によると、家族が自宅でと思っているのに対し、高齢者は介護施設でと考える人も少なくないということです。どちらも互いのことを思いやっているからではないでしょうか。その一方で、介護のために仕事をやめる介護離職も増加していて、一家族だけでなく社会全体の問題となっているのが現状です。

どんな立場の人も、自分らしい人生が、そして最期が安心して選択できるような社会であってほしい。祖父の命を通して教えてもらったことを忘れずに、誰に対しても優しさと尊重の気持ちをもって、最後まで生き抜く選択ができる社会を実現していきたいと思います。